

教科書の構成

※ 1年2章を例に示しています。

章の学習を始めよう！

学習する前に

正の数、負の数 を学習する前に

1 数の大小 小学校5年
次の数を小さい順に並べてみましょう。
4.5, $\frac{5}{2}$, 0, $\frac{1}{2}$, 1

2 数の計算 小学校4年～6年 ▶ 学びのマップ p.268
次の計算をしてみましょう。
(1) $8+3 \times 2$ (2) $\frac{1}{3} + \frac{5}{6}$ (3) $\frac{3}{4} \div \frac{9}{2}$

3 計算のきまり 小学校2年、4年 ▶ 学びのマップ p.269
次の□にあてはまる数を入れてみましょう。
(1) $9+7=7+\square$
(2) $(5+4) \times 8 = \square \times 8 + \square \times 8$

学習の準備
計算のきまり
○ $\triangle + \square = \square + \triangle$
◇ $(\triangle + \square) \times \diamond = \triangle \times \diamond + \square \times \diamond$

章のとびら

2章 正の数、負の数

世の中でよく使われている「数」にはどんなものがある？

読者サービスは、いろいろな実態にかかわるデータをもとにして天候を予測しています。そのデータの中には、 -3 や -15 などのよりも低い気温をもくんだものがあります。天候の予測は、私たちの日々の暮らしに役立つとともに、企業や自治体などの活動にも利用されています。

Let's Try

Let's Try

一のついた数を探してみよう！

02 下の図、各地点の標高をそれぞれ読み取り、数直線上に書き込んでみましょう。

01 下の図、各地点の標高をそれぞれ読み取り、数直線上に書き込んでみましょう。

導入課題

学習のまとめ

2章 学習のまとめ

この章で学習した内容を振り返ってみましょう。

学習のまとめ
2章の学習を通して、
● 正の数、負の数の性質を学ぶことで、反対の性質をもつ数と数とを比べることができるようになった。
● 負の数も正の数と同じように、数直線上に表わすことができるようになった。
● 負の数や分数もよく計算し、正確にできるようになった。
● 負の数や分数もよく計算し、正確にできるようになった。

章の問題

2章 章の問題

1 読者サービス、正の数、負の数を使って表すことができます。
次の数量を、正の数、負の数を使って表しなさい。
(1) 500円の利益を+500円と表すとき、300円の損失
(2) 12点の負けを-12点と表すとき、10点の勝ち

2 読者サービスの標高を調べてみましょう。
読者サービスは、各地点の標高を調べて表すことができます。
次の計算をしましょう。
(1) $8+(-1)$ (2) $-7+(-6)$ (3) $6-(-2)$
(4) $-10-(-10)$ (5) $8-12-3$ (6) $-13+9-(-3)$

3 正の数、負の数の大小、絶対値の計算をしてみましょう。
次の計算をしましょう。
(1) $8+(-1)$ (2) $-7+(-6)$ (3) $6-(-2)$
(4) $-10-(-10)$ (5) $8-12-3$ (6) $-13+9-(-3)$

4 正の数、負の数の大小、絶対値の計算をしてみましょう。
次の計算をしましょう。
(1) $8+(-1)$ (2) $-7+(-6)$ (3) $6-(-2)$
(4) $-10-(-10)$ (5) $8-12-3$ (6) $-13+9-(-3)$

5 正の数、負の数の大小、絶対値の計算をしてみましょう。
次の計算をしましょう。
(1) $15-(-12)+2$ (2) $10+7-(-12+7) \times 5$
(3) $(-3) \times 7 - 27$ (4) $(\frac{1}{3} + \frac{2}{3}) \times (-12)$

6 正の数、負の数の大小、絶対値の計算をしてみましょう。
次の計算をしましょう。
(1) $15-(-12)+2$ (2) $10+7-(-12+7) \times 5$
(3) $(-3) \times 7 - 27$ (4) $(\frac{1}{3} + \frac{2}{3}) \times (-12)$

7 正の数、負の数の大小、絶対値の計算をしてみましょう。
次の計算をしましょう。
(1) $15-(-12)+2$ (2) $10+7-(-12+7) \times 5$
(3) $(-3) \times 7 - 27$ (4) $(\frac{1}{3} + \frac{2}{3}) \times (-12)$

8 次の計算をしましょう。
(1) $-3-4-(-2)+(-7)$ (2) $(-\frac{1}{2}) \times \frac{3}{8} \div \frac{1}{2}$

9 工夫して、次の計算をしましょう。
(1) $(-5) \times (-27) \times (-0.2)$ (2) $5 \times (-\frac{1}{10}) \times 5 \times (-\frac{1}{10})$

章の学習を進めよう！

学習のきっかけになる問題



3 四則の混じった式の計算

計算してみよう
 $4 \times 3 - (8+6) \div 2$ を計算してみましょう。

加法、減法、乗法、除法をまとめて **四則** という。
四則やかっこの混じった式は、次のように計算するとよい。

- 乗法や除法は、加法や減法よりも先に計算する。
- 累乗のある式は、累乗を先に計算する。
- かっこをふくむ式は、かっこの中を先に計算する。

具体的な例



例1

四則の混じった式の計算
例1 (1) $9+4 \times (-5)$
 $= 9+(-20)$
 $= -11$
(2) $7-(-4)^2 \div 8$
累乗を先に計算する
減法よりも除法を先に計算する
 $= 5$



たしかめ

基本的な問題
次の計算をしましょう。
(1) $9-2 \times 7$ (2) $10-(-6)^2 \div (-3)$
次の計算をしましょう。
(1) $-5-12 \div (-3)$ (2) $(-5)^2 \times 2 + (-7) \times 3^2$



問1

理解を確かめたり、活用したりする問題
24 $24 \div (4-7)$ を計算しなさい。

問題解決のプロセスを示したページ

4 正の数、負の数の活用

読者サービス、正の数、負の数を使って表すことができます。
次の数量を、正の数、負の数を使って表しなさい。
(1) 500円の利益を+500円と表すとき、300円の損失
(2) 12点の負けを-12点と表すとき、10点の勝ち

小節の学習のねらい

もどって確認 関連する既習内容

数学メモ 関連する豆知識

ほかにも…

例題1 代表的な問題とその解答例

数学的な考え方

学習に使われている数学的な考え方

基本の問題

節末の基本問題

数学の広場

学習内容を深める話題や課題

巻頭ページ

● 数学的な考え方

数学的な考え方

読者サービス、正の数、負の数を使って表すことができます。
次の数量を、正の数、負の数を使って表しなさい。
(1) 500円の利益を+500円と表すとき、300円の損失
(2) 12点の負けを-12点と表すとき、10点の勝ち

巻末ページ

- 学びのマップ
- 数学の広場
- 学んだことを活用しよう
- 補充問題
- ひろがる数学(3年のみ)
- 総合問題(3年のみ)

学びのマップ

読者サービス、正の数、負の数を使って表すことができます。
次の数量を、正の数、負の数を使って表しなさい。
(1) 500円の利益を+500円と表すとき、300円の損失
(2) 12点の負けを-12点と表すとき、10点の勝ち